

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770315

研究課題名(和文) アフリカの無形文化保護における民族誌映画の活用

研究課題名(英文) The Use of Ethnographic Film in Safeguarding Intangible Cultural Heritage in Africa

研究代表者

川瀬 慈 (Kawase, Itsushi)

国立民族学博物館・文化資源研究センター・助教

研究者番号：30633854

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アフリカの無形文化を対象とした民族誌映画の制作と公開をめぐる議論を通して生まれる、研究者と調査対象の人々との関係性の変化、あるいは映画公開によって創出される社会との新たなつながり、について、エチオピアの音楽職能集団アズマリやラリベロッチを対象とする映画の事例を踏まえて考察した。さらに、作品を、被写体やそれを視聴する人々との創発的な営みのプロセスにあると位置づけ、映像実践、特に民族誌映画による記録を前提にした無形文化保護の可能性や問題について検討し、学術雑誌や図書に論考を発表した。

研究成果の概要(英文)：This research project has explored the changing relations between researchers and research informants as well as the relations with the wider society that emerged from the production and presentation of ethnographic films on intangible cultures in Africa. This project used my ethnographic films, which focused on occupational musicians called Azmari and Lalibaloc of Ethiopia. The project has investigated the kinds of negotiation and communication between an anthropologist/filmmaker and viewers, including protagonists of the films, that are triggered by films in the ever-changing ongoing anthropological practice, in order to understand the research subjects and to safeguard intangible cultures. My own investigation based on this research project has been published in several academic journals and publications.

研究分野：映像人類学、アフリカ研究、民族誌映画研究

キーワード：映像人類学 アフリカ研究 民族誌映画 無形文化 音楽 芸能

1. 研究開始当初の背景

世界各地の遺産の保護に取り組んでいる UNESCOは「無形文化遺産の保護に関する条約」を発効した。その条約の目的には、「関係のある社会、集団および個人の無形文化遺産を尊重すること」という項目を掲げる。しかし、多くの地域において、この目的を実現するために必要な調査がなされてきたとは言い難い。特にアフリカ地域においては、無形文化の担い手と地域社会との関係や地域住民の文化的価値観を踏まえたうえでの、音楽・芸能の保全・継承の方法に関する議論と実践がおこなわれてきたとはいえない。

報告者は、自らのエチオピアでの民族誌映画制作の経験を通して、映像人類学的見地から、音楽・芸能を対象とした映像制作の方法論について提言を行ってきた。そのようななか、国際機関が掲げる記録・保護すべき無形文化遺産の理念と、地域住民の無形文化に対する認識の間に溝があることを知った。また、国際民族誌映画祭に審査員として関わることを通じて、近年、学術的にも無形文化保護における映像の役割について議論が盛んになっていることを知った。これらの経験から、無形文化を保護する上で重要なことは、当該文化の担い手の考えを取り入れることであり、その上で映像を活用した調査研究が有効であると考えに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、エチオピアの無形文化を対象にした民族誌映画を事例に、映像を活用した文化保護モデルの構築を目指すことである。そこで、本研究ではエチオピア現地における1.文化の担い手(記録される側、記録を活用する側)を対象とした調査研究を通し、無形文化の映像記録に関する現地人当事者の認識や主張も明らかにする。また、欧州のアーカイブでの調査と、民族誌映画制作者を対象とした2.無形文化記録のアプローチに関する聞き取り調査、3.国際機関、行政機関での調査を中心に、アフリカの無形文化を対象にした望ましい映画制作、映像記録さらにはそれらの管理、社会的な普及のありかたについて検討する。

3. 研究の方法

(1)文化の担い手(記録される側、記録を活用する側)を対象とした調査研究:

エチオピアでのフィールドワークを通して、報告者がこれまでに制作してきた民族誌映画や蓄積してきたフッテージ映像をエチオピアの地域社会で上映し、音楽・芸能を支える技

法や知恵の伝承、望ましい文化表象の在り方をテーマにした討論を実施する。その様子を映像記録する。そして、当該文化の担い手である人々が、将来にわたり、作品のみならず作品をめぐる議論も参照し活用できるようなアーカイブの構築に関して現地の研究者や撮影された当事者たちと協議する。

(2)無形文化記録のアプローチに関する聞き取り調査:

欧州の大学やアーカイブ等で、アフリカ無形文化に関する映像資料と管理について調査を行う。エチオピアの無形文化を対象にした民族誌映画制作に携わった人類学者や映像作家にインタビューを行い、無形文化を対象とした映画の制作目的、撮影・編集における技術的・美的側面、問題点等を明らかにする。さらに、個々の作品の博物館、メディア・アーカイブ等での公表・活用や現地社会への還元の状況を調べ、比較検討する。

4. 研究成果

(1)日本文化人類学会機関誌『文化人類学』をはじめとする主要な学術雑誌、さらに『フィールド映像術』(古今書院、2015年)、『アフリカンポップス!文化人類学からみる魅惑の音楽世界』(明石書店、2015年)、『無形文化と生きる』(臨川書店、2017年)等の出版物に、本研究課題に関する論文を発表した。以上では、民族誌映画を視聴する側の人々の役割を映像人類学が軽視してきたことを指摘し、民族誌映画の制作と公開をめぐる議論を通して生まれる、研究者と調査対象の人々との関係性の変化、あるいは映画公開によって創出される社会との新たなつながり、について、エチオピアの音楽職能集団アズマリやラリベロッチを対象とする映画の事例を踏まえて考察した。作品を、被写体や、それを視聴する人々との創発的な営みのプロセスにあると位置づけ、映像実践をともなう無形文化保護の可能性について検討した。

(2)報告者は、第16回国際エチオピア学会(2012年)国際人類学・民族学科学連合マンチェスター大会(2013年)や、同連合幕張中間会議(2014年)等の国際会議や学会の場で、無形文化を対象にした民族誌映画の分科会を企画した。これらの分科会では、各国の文化人類学者や映像人類学者が各々の民族誌映画を公開するとともに、各作品の記録・制作方法論を発表した。同時に、作品の現地への還元、アーカイビングをめぐる問題や展望についてひろく意見交換を行った。以上の企画を通して、無形文化を対象とする

民族誌映画を通じた研究における国際的な研究交流ネットワークの形成に多少なりとも貢献できたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

Itsushi Kawase, ETHNOGRAPHIC FILMMAKING IN ETHIOPIA, the Approach and the Film Reception, In S. Dinslage and S. Thubauville (eds.), Seeking out wise old men. Six decades of Ethiopian Studies at the Frobenius Institute revisited, Studien zur Kulturkunde 131, 2017, 査読無, pp. 75-86, Berlin: Reimer-Verlag.

川瀬慈, コミュニケーションを媒介し生成する民族誌映画 -エチオピアの音楽職能集団と子供たちを対象とした映画制作と公開の事例より-, 文化人類学 80(1), 2015, 査読有, pp. 6-19.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjcanth/80/1/80_KJ00010003623/_article/-char/ja/

Itsushi Kawase, The Amharic Oral Poetry by Lalibalocc, Japanese Review of Cultural Anthropology Vol15, 2014, 査読有, pp. 185-198.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jrca/15/0/15_KJ00009911900/_article

[学会発表](計15件)

Itsushi Kawase, Ethnographic Filmmaking in Ethiopia, Vortrag im Rahmen des Colloquiums von Professor Kohl, 2016年7月11日, ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン、フロベニウス研究所, ドイツ

Itsushi Kawase, Towards a New Age of Anthropology with Visual Practice -Cases from Japan-, International Conference on Anthropology of Northeast Asia: The Anthropology of Northeast Asia, Flows and Groundings, 2015年6月19日, 山東大学, 中国

Itsushi Kawase, Intangible Cultural Heritage and Filmmaking: The Investigation of Knowledge, Method and Politics Based on Case Studies from Ethiopia, SAFEGUARDING THE INTANGIBLE: CROSS-CULTURAL PERSPECTIVES ON MUSIC AND HERITAGE, 2014年2月20日, ロンドン大学ゴールドスミス校, 英国

Itsushi Kawase, Greeting Seyfou Tchengar Audiovisually—Challenges and Prospects of the Documentation of Zar Spirits in Gondar, Ethiopia, The 17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES), 2013年8月8日, マンチェスター大学, 英国

[図書](計4件)

川瀬慈他、『文化遺産と生きる』飯田卓編 臨川書店、2017年、408ページ(分担執筆 pp.163-183)

『アフリカン・ポップス!—文化人類学からみる魅惑の音楽世界』鈴木裕之・川瀬慈編 明石書店、2015年、272ページ

『フィールド映像術』(FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ15)分藤大翼・川瀬慈・村尾静二編 古今書院、2015年、212ページ

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等
川瀬個人の研究 HP
<http://www.itsushikawase.com/japanese/>

台湾文化光点計画上映会 HP
<http://www.cva-iaes.com/minpaku taiwan/>

国際人類学・民族学科学連合幕張中間会議、民族誌映画分科会
<http://www.cva-iaes.com/japan2014/>

6. 研究組織

(1)研究代表者 川瀬 慈
(KAWASE, Itsushi)

国立民族学博物館・文化資源研究センター・助教

研究者番号：30633854

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()